

常なる磐

つねなる いわ

令和2年10月9日(金)

その2号

◇ 学習発表会に向けて

10月に入り、めっきり冷え込んできた。同時に、学校を取り囲む木々の色が、一斉に秋色を帯び始めた。ついこの前までは深緑一色だった木々があっという間に変化していく。全く経験はないが、目に映る様々な色で彩られた常磐の山に、一句詠んでみようかという思いさえ湧いてくる。

しかしながら、10月上旬であるにもかかわらず、遅生まれの蝉の声が聞こえる。常磐生まれの蝉の寿命は長いのではないかと錯覚するほどだ。

さて、昨今の冷え込みについては、涼しさを感じる時期を一気に乗り越したような感覚である。さすがに暑がりの自分も長袖の上着を引っ張り出してきた。

特に朝の冷気は、自宅と学校では大きな違いを感じる。上(かみ)の安戸や新居、小丸、大柳ではさらに冷え込みは厳しい。町中の学校では、この時期に検討のよしも無いが、手袋の対応もしていく必要がある。

学校では、5日(月)に行われた「全校体育・ミニ運動会」以降、2週間後の24日(土)に開催する「学習発表会」に向けて各学級が一斉に動き出した。

本来であれば、1学期の5月に運動会を行い、夏休みに担任が準備を行い、2学期開始から時間をかけながら子供たちを方向付けて演目を醸成させて発表につなげるのであるが、今年はそうもいかない。時期については分かっていたことではあるが、担任はいつ準備をしたのだろう。さらに、子供たちもその気になっている。本校の担任たちの手腕は、本当に大したものである。

例年に比べれば準備期間の少ない発表となる。よって見応えはあまりないかもしれないが、それは二の次、三の次、四の次。子供たちが教室で学ぶだけでなく、普段一緒に過ごす学級の友達と一緒に、「同じ目標をもって」「苦勞しながらも一緒に作り上げる」ことが大事なのである。これが、今後の人生を生き抜いていく「生きる力」となるだろう。そして、「全校体育」で子供たちが見せた澆漑とした動き、表情こそ大切であり、やはり行事で子供たちは自ら成長するのである。

今年度は「学芸会」から学習の成果を表現する「学習発表会」に変更して開催する。参観者も保護者に限定し、コロナ感染症防止対策を施して開催する。来賓の皆様や学区の皆様をお招きできないのは残念であるが、ご承知いただきたい。

「学習発表会」の成果は、その後の子どもたちの姿で確認していただけたらと思う。